

V 今後の検討項目

V 今後の検討項目

1. 今後の検討項目

本計画を進めるにあたり、今後、基本設計・実施設計にて検討を行う項目を以下に整理した。

①周辺との調和に関する項目

- ・周辺地域との調和に配慮したデザイン
- ・周辺のまちづくりの方針を踏まえた歩道状空地の具体的なデザイン
- ・北側広場との連続性を考慮したデザイン

②建築計画に関する項目

- ・各諸室の仕様（仕上材、設置する備品など）
（必要とされる性能についてより具体的なヒアリングを行う）
- ・LCCの低減を目指し、耐久性や維持管理の容易性に配慮した建築計画
- ・屋上グラウンドの安全性やイベント・災害時の大人数の移動を想定した動線の確保
- ・将来児童数が増減した場合のフレキシビリティの確保に関する具体的な考え方
（普通教室、給食室、職員室など）
- ・施設開放に関する学校エリアとの動線区画や、利用者と児童、教師の間に交流が生まれる魅力あるデザイン
- ・学習形態の広がりに対応できる普通教室・オープンスペースまわりの具体的な計画
- ・普通教室・オープンスペースまわりの年齢に応じた詳細なデザイン
- ・オープンタイプの教室について、十分な収納スペースや吸音性能などの確保手法
- ・各教科の関連性や施設開放に配慮した特別教室の詳細な配置計画
- ・周辺高層ビルによる日影の影響を踏まえて校舎内に自然採光を確保するための手法
- ・死角や危険箇所のない廊下や明るいトイレなど、安心して安全な空間
- ・学習形態の変化にも柔軟に対応できるメディアセンターの配置・形状・設備計画
- ・周辺住宅地や北側広場への様々な影響に配慮したデザイン
（騒音・日影・砂埃・防球ネットなど）

③構造計画に関する項目

- ・避難所としての十分な耐震性能を確保するとともに、経済性にも配慮した構造計画
- ・アリーナなどの大空間部分と一般部分のそれぞれに適した合理的な架構計画
- ・周辺の地盤状況などを考慮した構造計画

V 今後の検討項目

④環境・設備計画に関する項目

- ・LCCの低減を目指し、耐久性や維持管理の容易性に配慮した設備計画
- ・日常時の快適な学習空間と災害時の居住空間を両立する環境性能の向上と、災害時に自立的な運営が可能となる総合的な防災機能を備えた体育館への対応について
- ・ICTの活用について
- ・周辺の特性や用途による使用特性を考慮した効果的な環境配慮手法の選択

⑤工事計画・手法に関する項目

- ・周辺環境から受けるさまざまな影響についての配慮と、周辺住宅への圧迫感や騒音など、周辺地域へ及ぼす影響についての配慮手法
- ・近隣の状況や敷地の状況を考慮した工事計画・手法

⑥その他

- ・避難所としての規模や具体的な機能の設定
- ・川崎市立西丸子小学校のプールの共同利用について、カリキュラムや送迎方法などの具体的な運用方法
- ・災害時のトリアージ機能について、具体的な運用方法と、日本医科大学側への搬送動線などに関する日本医科大学や関係諸官庁との協議
- ・各種計画に際し、教師・保護者・地域などの関係者に対し、十分なヒアリングを行う。
- ・特に地域連携諸室については、地域に対し十分なヒアリングを行い計画を行う。

※LCC（ライフサイクルコスト）：建物を企画・設計・建築し、その建物を維持管理し、解体・廃棄するまでの建物の全生涯に要する費用の総額